

分 か る と 快 感 ！

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

工場で働く人は、男性と女性、 どちらが多かった？

(東京大学 2011年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます！

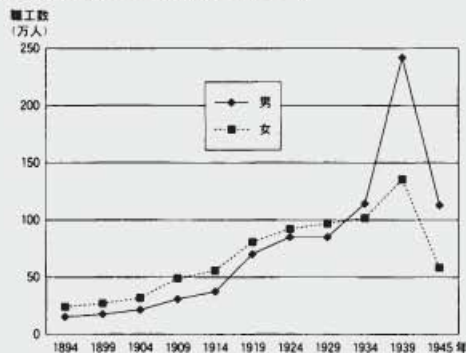


Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています！

次のグラフは、1945年以前に日本(植民地を除く)の工場で働いていた人(職工)の男女別の人数の変化を表したものです。なぜこのようなグラフになるのか、説明しなさい。



グラフが始まる1894年は明治時代の中ごろ、グラフが終わる1945年は太平洋戦争の終戦の年です。グラフをながめてみると、1894年から1929年までの間は男性より女性の工場労働者が多かったことがわかります。そして、男性労働者は、1914年から1919年にかけてと、1929年から1939年にかけて、急激に増えていることがわかります。

なぜ、同じ「工場労働者」にもかかわらず、数の変化の傾向が男女で大きく異なるのでしょうか。

明治時代以降の工業化

日本が明治時代を迎えた19世紀後半、ヨーロッパやアメリカなどの国では工業化が進んでおり、日本でもそれに追いつこうと、欧米型の工業化が急速に進みます。その中で、日本でもっとも早く成長したのが、糸を作る繊維工業でし



イラスト・瑞木匠

展します。

工業と労働者の関係

ここでもう一度グラフを見てみましょう。工業の変化と男女の数の変化がほぼ対応していることがわかりますね。

当初発展した繊維工業では、低価格を実現するため、労働者の多くが、賃金の低い、農村からの出稼ぎの女性でした。一方、重化学工業では、力仕事が多い、危険が多いなどの理由から男性労働者がほとんどでした。したがって、繊維工業が発展した明治時代以降は女性の工場労働者が多く、重化学工業が発展した1910年代・1930年代には男性労働者が急激に増えているのです。

また、1945年には男女とも労働者数が大きく落ち込んでいます。これは太平洋戦争の影響で戦場に赴いたり亡くなったりする方が多く、減ったものと考えられます。【Z会・河原井彩】

工業の発展 戦争も影響

た。ほかの国よりも低価格で製造できるようにしたことで、日本の糸は長らく重要な輸出品となり、多くの工場が造られました。

その後、1910年代になると、造船業などの重化学工業が急速に発展します。1914年より第一次世界大戦が起こり、戦場となったヨーロッパ向けの輸出が盛んになったためです。

また、1930年代には、世界的に起きた不況を打開するため、また日中戦争やアメリカに対する軍備拡張のために、ふたたび重化学工業が発

！今回の教訓

工場働く男性・女性の数は、日本の工業の発展に応じて変化していきました。現代の日本の工業と工場労働者にはどのような特徴と傾向があるのか、調べてみるとおもしろいですね。



河原井彩さん

2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。